

「友愛の水」記念式典

通水35周年・顕彰碑披露

昭和60年7月9日、通水記念式典が開催された記念すべき同日に、上島町と木下良一顕彰碑建立委員会共催による「友愛の水」記念式典および木下良一元弓削町長顕彰碑除幕式が開催されました。

平成30年7月豪雨では、町民は12日間にわたる断水を経験し、水の重要性を再認識するとともに、他に例を見ない越県分水実現に尽力された広島県、愛媛県、東広島市並びに広島県との仲介をいただいた和気成祥元瀬戸田町長に敬意と感謝を新たにしました。

主催者挨拶では、宮脇町長から「友愛の水」分水の経緯、山尾顕彰碑建立委員会会長から顕彰碑建立の経緯と寄付者への御礼が述べられ、来賓の木下氏ご家族より故良一氏の故郷を強く愛する思いと謝意が述べられました。

上島町は、この記念式典を機に「友愛の水」関係自治体との更なる結びつきを願うとともに地元有志による通水事業功労者である木下良一元弓削町長の偉業を讃えた顕彰碑披露が行われ、参列者と祝いました。

町民の皆さまにおかれましても、「友愛の水」とこの記念碑を深く記憶にとどめ、上島町の誇りとして語り継いでいかれることを切に願うものであります。



町長の独白



この町を変えるためには、

コロナに対する人類の無力感は何ともしがたいのですが、勝ち負けに拘らなければ光は見えてきます。「With コロナ」という考え方です。

目に見えないものをやっつけるというのは大変なのです。だから、この状態も人類を取り巻く環境としてそのまま受け入れてしまうのです。しかし、重症肺炎になって生命を危険にさらせと言ってるわけではありません。出来るだけ近づかないようにして係わりを持たないようにするのです。普段の生活から免疫力というバリアーを強くしていけば、言い寄られてもなんとかスルー出来ます。島の環境を活かした悠々自適の暮らしを続けていけばコロナとの距離は十分保てます。ソーシャルディスタンスならぬバイオロジカルディスタンスとでもいいでしょうか。

ものの見方を変えてみると、今まで持っていた価値観や行動様式も変化するはず。生活を組み立てて行く過程で、地域社会とのかかわり方は大きなウェイトを占めています。お互いに大切な部分を共有したり、貸し借りしたり、ギブ&テイク、持ちつ持たれつ、相互扶助、その延長線上での物々交換等々..。これは江戸時代以来、我が国が最も得意としていた地域社会の持続性、恒常性、復元力、多様性といった

ころでしょうか。

これまで経済効率一辺倒で突き進んできた大量消費生活を真逆の方向にうまくシフトできるかどうかという不安が残りますが、人類が生き残るためには、こちらに進むしかなさそうです。世間では「新しい生活様式」とか言われていますが、我々日本人には以前からの古き良き生活様式に回帰するということになりそうです。

しかし、この移行の過程には大きな障壁が想定されます。この持続可能な生活様式を取り入れるためには、生活の知恵という豊富な経験値が求められるからです。お百姓さん、海千山千... 残念ながらこう呼ばれる方たちはほとんどいなくなってしまいました。刻々と変化する環境の中で、観天望気、森羅万象を即座に判断して有効な手立てを講ずることができるか、豊かな経験なくしては語れないからです。

SDGs＝持続可能社会の構築は、誰もができることをできるところからやればいだけなのですが、そのための実践経験は欠かせません。何事も百聞は一見に如かずです。子どもさんからお年寄りまで、地球の変化に対応した新たな経験をどんどんと積み上げていこうではありませんか。 上島町長 宮脇 馨

CONTENTS

広報かみじま
2020年8月号 第191号



今月の表紙
生名八幡神社 茅の輪くぐり

- 2 町長の独白 / 目次
- 3 「友愛の水」記念式典
- 4 健康だより
- 6 上島の郷土話 / 島おこし協力隊活動報告
- 7 LETTERS FROM SCHOOL
- 8 ALTコーナー / 観光協会だより
- 9 上島の文芸 / KAMIJIMA KITCHEN
- 10 しまなみ農業だより
- 11 防災だより / 消防だより
- 12 お知らせ
- 19 島々の話題
- 20 戸籍だより
- 21 行事カレンダー / 潮汐表 / 潮湯だより
- 22 KAMIJIMA SNAP